

ICOM

ご使用になる前に

特定小電カトランシーバー

IC-4880

CALLPRO
コントロール

ICOMの製品は、世界中で愛用されています。ICOMの製品は、世界中で愛用されています。

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本書では、注意事項と基本的な取り扱いを記載しています。本製品の詳細な設定や別売品などについては、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。

<p>下記URL、またはQRコードから弊社ホームページにアクセスして、[フリーワード検索]欄に製品名を入力すると、取扱説明書を検索できます。</p>	
<p>アイコム株式会社 取扱説明書 ダウンロード http://www.icom.co.jp/support/download/manual/</p>	

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、CALLPROは、アイコム株式会社の登録商標です。QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。最新の内容は、弊社ホームページで公開しています。本書の内容の一部、または全部を無断で複製/転用することは、禁止されています。

アイコム株式会社	高品質がテーマです。
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32	A7489D-1J Printed in Japan
201810	© 2018 Icom Inc.

アフターサービスについて

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は
お買い上げの販売店にお問い合わせください。保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。
保証期間後は
お買い上げの販売店にお問い合わせください。修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- 保証書について**
保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 弊社製品の技術的なお問い合わせ先について**
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。**お問い合わせ先**
アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313 (フリーダイヤル)
◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、06-6792-4949 (通話料がかかります)
受付 (平日 9:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

防水性能維持の定期点検と保守

本製品は、IPX7を保証している無線機です。保証期間については、保証書をご覧ください。この防水性能を維持するためにも、保証期間経過後は定期点検(年1回)の実施をおすすめします。また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

安全上のご注意

- **使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。**
- 次の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について
地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 共通(無線機本体/バッテリーパック/充電器)

△危険

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**火災、感電、故障の原因になります。
- **次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。**
 - 充電器に指定以外のACアダプターを接続しないでください。
 - 指定以外の充電器を使用しないでください。
 - 充電端子間をショートさせないでください。

△警告

- **分解、改造しないでください。**火災、感電、故障の原因になります。
- **万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**感電、けがの原因になります。
- **電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- **次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**
 - ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
 - ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

△注意

- **直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- **ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。
- **−10℃～+50℃以外の環境では使用しないでください。**記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

■ 無線機本体

△警告

- **アンテナを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- **アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。**感電、故障の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れなくてください。

△注意

- **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**変形や破損の原因になることがあります。
- **スピーカーの開口部に針金などを差し込まないでください。**スピーカーの開口部は、内部に貼られた防水シートにより無線機内外の気圧を調整する機能を兼ね備えています。防水シートが破損すると、防浸性が失われる原因になることがあります。
- **付属品、および指定の別売品以外は使用しないでください。**故障の原因になることがあります。
- **電気・電子機器の動作に障害を与える場合は、送信しないでください。**テレビやラジオなどに受信障害を与えたり、プレーカーなどの機器が誤動作したりする原因になることがあります。

■ 充電器

△警告

- 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
 - ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
 - 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
 - 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

△注意

- 次の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。**
- 0℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
 - 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
 - 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
 - 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。

■ バッテリーパック

△危険

- **次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**
 - バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
 - バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
 - 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
 - バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
 - バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- **コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

△警告

- **使用中や充電中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**使用をつけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- **指定の充電時間以上、充電しないでください。**指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- **満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。**過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- **テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **バッテリーパックは、ぬれた状態で無線機や充電器に装着しないでください。**無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

△注意

- 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**
- **バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。**長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、 (残量あり)の状態を表示するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。約1ヵ月：−20～+45℃　　約3ヵ月：−20～+35℃約1年　：−20～+25℃
 - 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

<p>バッテリーパックの特性と寿命について</p> <p>○ バッテリーパックは消耗品です。充電できる回数は、300回～500回が目安です。充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。</p> <p>○ 発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。</p> <p>○ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。</p> <p>○ 劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。</p> <p>○ 充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。</p> <p>バッテリーパックの膨らみについて</p> <p>性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。</p> <p>○ ひんばんに充電している</p> <p>○ 満充電直後でも再充電している</p> <p>○ 高温な場所で使用・保管している</p> <p>○ 本書で説明する充電方法と異なる</p> <p>バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。</p>

<p>使用後はリサイクルへ</p> <p> Li-ion</p> <p>この製品は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。JBRCホームページ　http://www.jbrc.com/</p>

<p>アルカリ電池ケースについて</p> <p>単3形アルカリ乾電池専用のアルカリ電池ケース(別売品:BP-239)をご使用になる場合は、弊社ホームページに掲載の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。</p>
--

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター回路内蔵のおもな電子機器

- LED照明器具
- 電磁調理器
- 給湯器
- 自動車に搭載された電子機器
- 太陽光発電装置

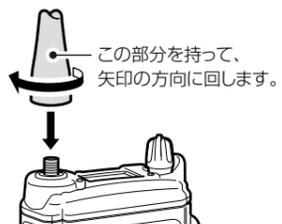
電波法上のご注意

- 他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。
- 本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。そのため、下記のことは、電波法違反になります。
 - 本製品の分解や改造
 - アンテナ(FA-S28U：付属品/FA-S29U：別売品)の加工
 - 弊社指定(FA-S28U/FA-S29U)以外のアンテナの使用

付属品について

- アンテナ(FA-S28U) □ バッテリーパック(BP-238N)
 □ ご使用になる前に(本書) □ ハードケース(LC-160) □ 保証書

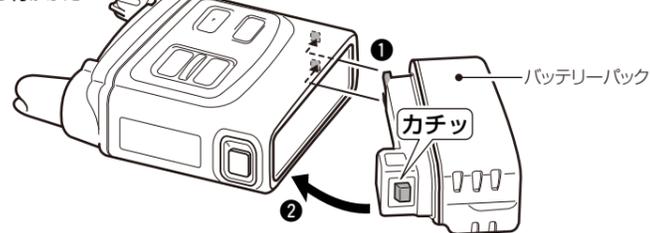
■ アンテナの取り付け



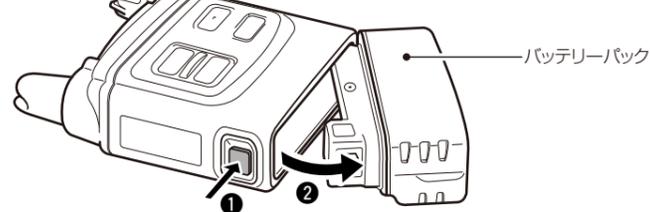
■ バッテリーパックの取り付けと取りはずし

本体の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。

取り付けかた



取りはずしかた

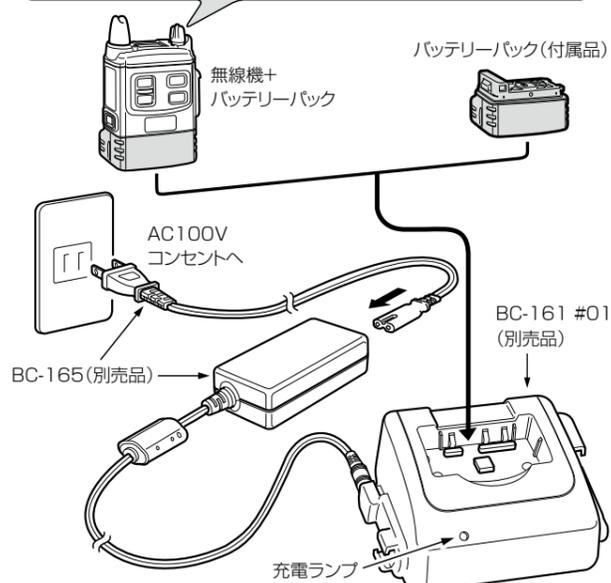


充電のしかた

ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。
 ※充電器(BC-161 #01)と充電器の電源(BC-165)は、別途ご購入ください。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。
 充電中に充電器のランプが赤色で点滅するときは、無線機の電源が切れていることを確認してください。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
 ※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。



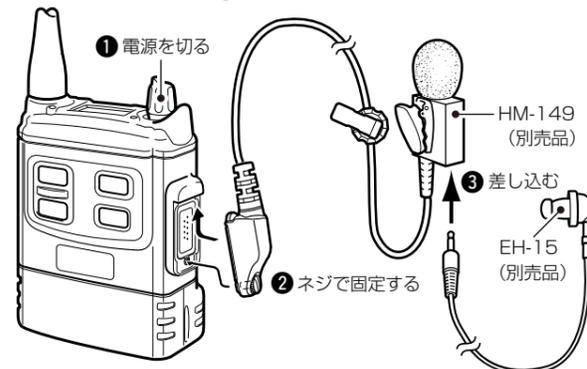
■ 運用時間と充電時間

容量 : 1350mAh min.(1400mAh typ.)
 運用時間 : 約13時間(同時通話状態で連続使用時)
 充電時間 : 約2.5時間(BC-161 #01を使用時)

マイクロホンとイヤホンの取り付け

取り付けしていない状態では、双方で音声聞こえません。

【取り付け例：HM-149+EH-15】

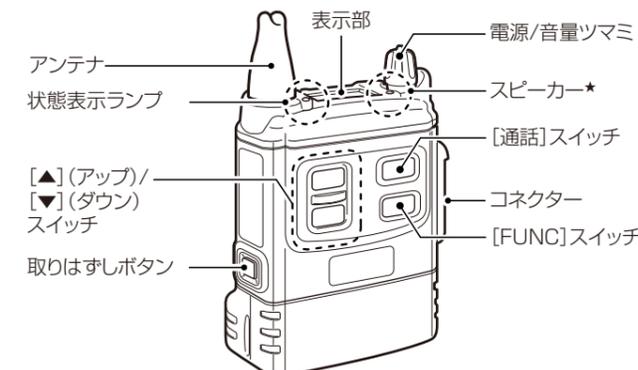


△警告

下記の事項を守らないと、聴力障害の原因になります。

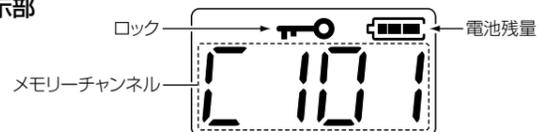
- コネクターの取り付けや取りはずしをするときは、大きな異音が出ることがあります。電源を切ってから、取り付けや取りはずしをしてください。また、イヤホンは、耳からはずしてください。
- 本製品の音量は最小にしておき、イヤホンなどを耳に当ててから、聞きやすい音量に調整してください。

各部の名称



★操作音が出力されるスピーカーです。
 相手の音声は、コネクターに接続されたイヤホンやスピーカーから出力されます。

■ 表示部



■ バッテリーパックの残量表示

- ☐ : 十分に容量があります。
- ▢ : 充電する時期です。(短時間の運用は可能)
- ▣ : すぐに使えなくなしますので、充電が必要です。
- : ほとんど容量がなく、表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。

操作方法

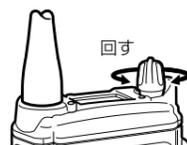
1. 電源を入れる

電源/音量ツマミを時計方向に回すと、「ピー」と鳴り、電源が入ります。
 ※電源を切るときは、反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。
 ※音声信号を含んでいない電波(無変調)が常に送信された状態(常時送信)になります。



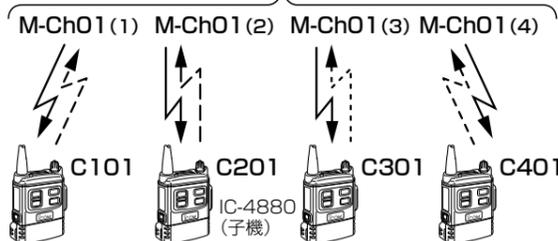
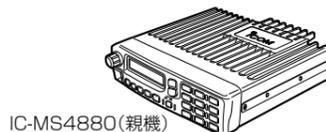
2. 音量を調整する

電源/音量ツマミを回して、コネクターに接続されたイヤホンから相手の声が聞こえる音量に調整します。



3. メモリーチャンネルを選択する

[▲]/[▼]を繰り返し押して、あらかじめ登録されたメモリーチャンネル名称(例:C101~C401)から選択します。
 ※下図の選択例では、最大5名で同時通話できます。



4. 呼び出しをする

[通話]、またはマイクロホン(別売品)のマイクスイッチを押して、マイクに向かって、相手(親機、または子機)に呼びかけます。
 ※状態表示ランプが赤色に点灯して、音声信号が送信され、相手が応答すると、電話と同様に同時通話できます。



5. 呼び出しを受ける

イヤホン(別売品)やスピーカー(別売品)から相手の声が聞こえてきたときは、[通話]を押して、マイクに向かって、相手(親機、または子機)に応答します。
 ※応答すると、状態表示ランプが赤色に点灯して、電話と同様に同時通話できます。



メモリーチャンネル表示一覧表

「チャンネルメモリー」モード(出荷時の設定)で使用する場合、本製品(子機)とIC-MS4880(親機)に設定されているメモリーチャンネル表示の対比一覧表です。
 ※1台の親機(例:M-Ch01)と4台の子機(例:C101、C201、C301、C401)が同時通話できます。

子機(本製品)	親機(IC-MS4880)	子機(本製品)	親機(IC-MS4880)
C101	M-Ch01	C106	M-Ch06
C201		C206	
C301		C306	
C401		C406	
C102	M-Ch02	C107	M-Ch07
C202		C207	
C302		C307	
C402		C407	
C103	M-Ch03	C108	M-Ch08
C203		C208	
C303		C308	
C403		C408	
C104	M-Ch04	C109	M-Ch09
C204		C209	
C304		C309	
C404		C409	
C105	M-Ch05	C110	M-Ch10
C205		C210	
C305		C310	
C405		C410	

※設定内容やメモリーチャンネル表示をお買い上げの販売店を変更して、お渡ししている場合は、上記の表と異なります。
 そのときは、設定内容をお買い上げの販売店におたずねください。

セットモードによる機能設定

設定モードに移行するには

1. 本製品の電源を切ります。
2. [通話]を押しながら、電源/音量ツマミを回して、電源を入れます。
 ・「ピピッ」と鳴って、右図のように「SET1」を表示後、セットモードの設定項目(例:Mc 5)が表示されます。
 ※「SET1」が表示されなかったときは、手順1から操作をやりなおしてください。



セットモードに移行後、設定内容を変更するには

1. [FUNC]を繰り返し押して、設定項目を選択します。
2. [▲]/[▼]を押して、設定を変更します。
3. [通話]を押すと、設定が確定されます。
4. 電源を切ると、セットモードが解除されます。
 ※セットモードを解除するまで通話できません。

セットモードで変更できる設定項目

- マイク感度 : 本製品のコネクターに接続しているマイク感度の設定
- 反転表示 : 無線機本体を腰などにかけるときなど、メモリーチャンネル表示を上下反転させる設定
- 接続ケーブル : マイクロホンの接続ケーブル(別売品)に取り付けられたマイクスイッチの動作を有効にする設定
- スケルチレベル : 弱い信号も受信できるようにしたり、強い信号だけを受信できるようにしたりする設定
- 通話通知 : 本製品(子機)が同じシステム内で運用する親機(IC-MS4880)の通信圏内にあるかどうかをピープ音で通知する設定
- 秘話機能 : 他局に通話内容を傍受されるのを防止する設定